

K Aさんへのインタビュー (no. 061)

1, 始めに

就職活動を終えられた先輩にお話を伺った。この先輩は同志社大学商学部4回生、体育会ボート部所属の先輩で大手電機メーカーに内定を受けている。今回は①この就職先に決めた理由②就職活動をするにあたってしておいたほうが良いと感じたこと③最終面接の内容の3点で質問させて頂いた。

2, インタビュー内容

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 特にこの業種に興味があったわけではなかったが、大企業ということと、学力だけで決めない感じで受けるところを決めていた。面接などで人柄を見てくれるようなところを選んで受けていた。

Q: その会社の雰囲気はどうやって判断するのですか？

A: まず説明会。もちろんそれだけそれから面接で上に進んで行くうちにわかる。食品メーカーなんかもいくつか受けたけど、体育会の雰囲気が多くてよかった。素材メーカーは完全に学力で決める感じで自分に合わないと感じた。「馬鹿はいらねえ」みたいな雰囲気で肌に合わなかった。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: スポーツ(部活)をやったほうがいい! 空気を読めなければいけない、と感じた。

Q: 敬語の使い方などですか？

A: 敬語とかではなく、面接で他の受験者が面接官に「(自分からすると)そこでそんなことをいうか?」というような内容を話していた。空気を読んで、ちゃんとした受け答えをできるかどうか、というか。

あと、サークルとかでは言うことがあまり無いんだな、と思った。自己アピールとかで話すネタがないというか。

まあ受ける会社に寄るけど、頭とかでなくて人柄をかってくれるところもあると思う。

Q3：最終面接はどんな感じですか？

A3：最後の確認だけ、というのもあったし、一次面接お同じ感じで志望理由、学制時代頑張ったこと、自己アピール、という感じのところもあった。（最終面接は複数受けていた）最終面接だと役員の方が面接をするので重みが違うけれど。学生時代頑張ったことはどこでも聞かれるし、大事。

（終了）

3， 考察

以上のインタビューから、この先輩は説明会などに参加したときや面接で、その企業が自分にあっているか、自分を求めているか、（それから大手、ということもあるが）を判断して就職活動を進めていっていたようである。自分のような人材を求めている“市場”で勝負するという印象を受けた。また、学生時代に、面接時に語れる何かを持つこと（先輩は体育会の部活を推していたが）と、空気が読めるように（推測だが目上の方と話しなれておき、常識的な受け答えができるようになっておくということ）なっておくことが必要ではないかと話されていた。

K Bさんへのインタビュー (no. 062)

1, はじめに

就職活動を終えられた先輩にお話を伺った。今回お話を聞くことができたのは私が所属する体育会ボート部の先輩（女性）である。以下はプロフィール。

〈先輩のプロフィール〉

同志社大学文化情報学部

同志社大学体育会ボート部所属（マネージャー）

4回生 女性 関西地方に在住

大手百貨店内定

2, インタビュー内容

主な質問内容は、

Q1 この内定先に決めた理由

Q2 就職活動をする上でやっておけばよかったこと・とっておけば良かった資格

Q3 どんな“軸”を持って就職活動をされましたか？

Q4 仕事をする上で結婚についてどう考えているか

の3点である。

《インタビュー内容》

Q1：この内定先に決めた理由は何ですか？

A1：3つの企業が最終面接まで残り、それで一番最初に内定がでたから。2, 3番目に行きたかったところだったので「もういいや！」と思いここに決めた。

Q：受けられた企業の数はいくつですか？

A：エントリーシートを出したのは全部で60企業くらい。最終まで残ったのは6企業で、内定先が決まった時点で就活を辞めたので、その内2つには行かなかった。

Q2：就職活動をしていて、やっておけば良かったこと・取っておけば良かった資格などはありましたか？

A2：TOEICは別に必要ではなかった。海外で働く職種などであればもちろん必要だと思

うが、百貨店や鉄道会社などを受けていた私には不必要だった。あと、車の免許は必要だと思う。就職活動時に持っていなくても卒業まで取るようにすればいいけれど、営業などをするのであれば必ず必要。

あと、SPIは勉強しておいたほうが良いと思う。本当に行きたい企業に筆記で落とされるのは悲しい。でもあまりSPIを見ていない企業もあるように感じた。私自身あまりSPIの出来は良くなかったはずなのだが、それでも通った企業がいくつかあった。

Q3：よく、「就職活動は自分の“軸”を持ってー」などと言いますが、先輩の場合、どんな“軸”を持って就職活動をされていましたか？

A3：自己分析が、いわゆる「ナアナア」だったので、実際のところあまり考えていなかった。しかし企業を探す基準としては、業種で選ぶというよりもまず本社が関西にあることを条件にしていた。本社が関西にあれば、若いころは日本のどこかに飛ばされてもある程度年数を重ねれば本社のある関西にひょっとすると戻って来ることができるのではないかという期待があったため。

(注：この点に関しては単なる推測だと言われていた。)

あとは以前から電車が好きだったので、鉄道会社を好んで受けていた。鉄道会社は鉄道以外にもいろいろな業種に関わっていることもあった。

Q4：就職が（一応）決まられたわけですが、結婚についてはどうお考えですか？

A4：3年経ってから辞めようと考えていた時期もあったけれど、老後の資金も蓄えなければならぬと思い直し、今は結婚しても働こうと考えている。

(終了)

3. 考察

「就職活動の“軸”は何か」という問いに、勤務地を第一の条件としたこと、それから自らの趣味嗜好から、企業を選んで受けられていたことが私からすると以外だった。職種、業種から選ぶという私個人の考えからいささか外れた回答であったからである。

それから、結婚について質問をさせて頂いたがこの先輩は最初から共働きを望むわけではなく、老後の資金を要因として挙げ、それが故に結婚しても働くことを考えていると答えられたことが印象的であった。

K Cさんへのインタビュー (no. 063)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、政策学部4回生の男性である。内定先は地方銀行とのことであった。筆者と授業で知り合ったこの先輩に、アポなしでインタビューさせていた。しかし、インタビュー時間が少なかったため、あまり深い質問は出来なかったことが今回の反省点である。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 特に銀行に勤めたいという気持ちは無かったが、内定がでた3社のうちで選んだ結果こうなった。地元であることも選んだ理由ではある。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: 自分の場合は特に資格を持っているわけでもない。しかし別に就職活動中に不自由を感じたことはなかった。商社を主に受けていたが資格の必要性はあまり感じなかった。資格を取ることに精を出すより、面接でいかに自分を表現し売り込むか、ということのほうが重要だし、確実だと思う。

面接ではやはり空気が読めることが必要だと思う。なかなか質問の真意を理解できていない人を何人も見た。面接が進むにつれそんな人は減っていったように思うので、結構大事なことだと思った。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 最終面接には4つの企業で進むことが出来た。最終だからといって、面接が重役の人になることはあったようだが、基本的には普通の面接だった。いつも通り、笑顔と大きな声で勝負し、一般的な答えをしていたら大丈夫なのではないかと思う。

エントリーシートのコピーをとることを忘れたことが一回だけあり、そのときは冷や汗をかくような思いをした。受け答えをしっかりと想定していつでも言えるようにしておけば大抵の面接は大丈夫なのではないかと思う。

3, 考察

この先輩にはあまり深い質問が出来なかったのが悔やまれるが、次回はしっかりとアポをとり、時間を確保してインタビューをしたいと思う。

インタビュー中、面接時の笑顔と大きな声をしきりに強調されていた。この先輩は明るく、はっきりと喋る方なので納得できた。特に変わった質問を受けない限り、想定した受け答えで何とか言われており、心配することは無いとおっしゃられた。

KDさんへのインタビュー (no. 064)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、去年同志社大学文学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、今回はOB会で集まりがありそこでインタビューさせていただいた。勤務先は百貨店とのことであった。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 関西で就職したいということと、収入、それから福利厚生で3つで就職活動の方向性を決めていた。このほか某パチンコ会社とコープ神戸に内定をもらったが、その3つのかねあい最終的に今の会社に勤めている。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: 体育会ということと、景気がまだ良かったのでそれほど苦労した記憶は無い。しかし英語が出来ないので受けることをあきらめた企業がいくつかあったので、そういった自分の志望先にその必要性があるようなら資格をとれば良いと思う。無理に取ろうと頑張っても必要なかったという人もたくさんいるようなので。あいさつはしっかりする！社会人としての基本です。学生のうちに習慣付けると良い。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 最終面接には3つの企業で進むことが出来た。実際かなり緊張したが、自分のフィールドの話(部活の話)になれば話の主導権を握る自信があったので、面接官がつっこんでくれるのをまっていたように思う。いまの自分から見るとまだまだ足りないところだらけで臨んだ面接であったように思うが、なぜか通った。かなり緊張するほうなので、本番であがってしまうことのないよう、質問の回答をひたすら予想していたように思う。それから、入って気づいたことであるが、この職場には同志社出身の人が多。出身大学のブランド力を入れたということもあったのだろうと感じる。

3, 考察

同志社出身の同僚の方が多いと言われたのが一番印象的であった。大学の縁が就職に影響することがあるということ始めて認識したインタビューであった。授業では大学の先輩後輩の繋がりで就職やポストが決まることがある。ということは聞いていたが、実際にあるということを知り、とても興味深かった。

面接時の質問の回答を考えておくことが大事だということもわかった。

KEさんへのインタビュー (no. 065)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、去年同志社大学政策学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、今回はOB会で集まりがありそこでインタビューさせていただいた。勤務先は製薬会社である。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 大手ばかりを受けていた。とりあえず名前を知っている有名企業にエントリーシートを出しまくった記憶がある。そのためか、なかなか内定どころか二次に進むことも珍しい、という有様だった。浪人してそのうえ私立大学に通わせてもらっていたので有名どころに就職して両親を喜ばせたかったという理由もあった。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: 英検2級をもっているだけでTOEICなどの資格は持っていない。自分が落とされた企業はわからないが、受かるところには受かったのが本当に必要かどうかは疑問。知り合いに、TOEICを頑張っている人がいたが、そんなに有名な企業に勤めているひとばかりというわけでもなく、資格を持っていても落ちるときは落ちるし、もっと大事なことがあるはず。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 最終面接には2つの企業で進むことが出来た。なかなか最終面接まで行かず、かなり不安になった時期もあった。そのころは半ば自暴自棄になりかけ、面接をすっぼかしたこともあったが、内定をひとつ貰ってからは落ち着いて就職活動をする事が出来た。

3, 考察

お話を聞かせて貰いまず感じたことは、なんて適当な就職活動をしておられたのかという驚きであった。エントリーシートも十社程度にしか出しておられず、面接をすっぼかしたこともある、というようなやり方で今の就職先に内定を出されたことに、頑張っ て真面目に就職活動をする人と比べると不公平を感じる。今年とは経済の状況が異なるので一概に今年就職活動をされている方々と比較は出来ないが、このような就職活動のやり方でも内定がでるといふことがあるということを頭において、あせらず就職活動に向かいたいと思う。

K Fさんへのインタビュー (no. 066)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、去年同志社大学文学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、今回はOB会で集まりがありそこでインタビューさせていただいた。現在は塾で講師をされている。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 警察官になりたかった。父親が警察官であったためだと思う。そのために勉強していたがその夢は叶わなかった。大学一回生から教職課程を取っており、これは「一応取っておこうかな。」程度の気持ちで受けていたが教育実習まで課程を進めたとき、教育関係の職に就きたいと思うようになった。教師には教育実習の直前まではなるつもりは無かったため、免許取得の申請をしていなかったため、教師への途も断念した。いろいろ考えて、それなりの数の企業を受けたが上手くいかず、9月頃まで内定が出なかった。

両親に迷惑をかけるわけにもいかなかったので内定がでた今の会社に就職したが、許されるのであれば就職浪人したかった。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: 公務員の勉強（警察官）はしていた。しかしそればかりで手一杯になり、その他の資格のための勉強などは殆どしなかった。なので特に資格を持って就職活動に臨んだわけではなく、なかなか内定も貰えなかったのが資格はあったほうが良かったのではないかと思う。自身は無いが。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 3つの企業の最終面接を受けたが、内定を貰ったのは2社であった。面接を通して感じたことは、喋りすぎないようにしなければならないということであった。自分の癖で、話をするのは得意なのであるが、喋りすぎて余計なことまで言うことがある。的確に、明確に、そして簡潔に話すことを自分の課題として認識していた。

3, 考察

就職活動は真面目に取り組まれていたこの先輩がなぜなかなか内定を貰えなかったのか、直接的な理由はわからなかった。エントリーシートも数十社出し、勉強熱心な方である。もし、その理由をこの先輩の就職活動のやり方に求めるならば、それは途中で何度も志望先の方向性を変更したことはないかと思う。視野を広くもつことが大事だと、違う先輩から伺ったが、自分の志望が変わるかも知れないということは、念頭においておくべきことなのかも知れない。

KGさんへのインタビュー (no. 067)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、去年同志社大学経済学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、今回はOB会で集まりがありそこでインタビューさせていただいた。現在は県庁にお勤めである。

2, インタビュー

Q1：この就職先に決めた理由はなんですか？

A1：大学1回生のころから、公務員試験を考えていた。部活の合間を縫って勉強し、試験をパスすることが出来た。民間に勤めることも考えてはいたが、主に公務員試験に力を注いだ。

両親が公務員なので、自然と自分も公務員になろうと思った。安定しているという点が一番の理由。また、職場の雰囲気も自分の性格と合っていると思う。

Q2：就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2：公務員試験に殆どの時間を割いたので、他の資格などは特に持ってはいない。自分の目指す職に必要な資格は取らなければならないし、何もいないのならばその必要は無い。インターンには行った。

Q3：最終面接はどんな感じでしたか？

A3：自分の例は特殊だと思うのであまり参考にならないかもしれないが、民間の会社の面接とは少し趣が異なるんじゃないかと思う。自己分析をしっかりとすることが肝心。

この職が自分に合っているという確信をもって面接に望むこと。自信がないと思われするのはマイナスになるから。

3, 考察

この先輩は部活と公務員試験の勉強を両立した学生生活を送られていたように思う。練習の合間や朝の休憩時間など、短い時間を有効に使って試験をパスするという事はなかなか出来ないことだと思う。その努力の原動力は、やはり自分が公務員になるという確固たる意思があったことがあるのだろうと感じた。揺るがない就職活動の方針があると、そこに向かって突き進めるのだろうと思う。

KHさんへのインタビュー (no. 068)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、2年前同志社大学工学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、今回はOB会で集まりがありそこでインタビューさせていただいた。現在は大手電気メーカーにお勤めである。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 収入が良かったことと企業ブランド、それから東京で働きたいという願望があったのでここに決めた。工学部の学内推薦のようなものを使わせてもらった。工学部は院までいかないと実践的な知識や技術は厳密には身につかない。しかし自分は院に行かず、就職しようと思った。現在は文型と理系との間の中間的な立場にいる自分の立場を生かし、その間を取り持つような仕事をしている。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: 研究室に入ってからの研究に多くの時間をとられていたので特に資格は持っていないし、取ろうとしなかった。工学部に関しては課程とは別に何かの資格を取るとは別に必要ではないと思う。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 重役クラスの方が面接官だったのでかなり緊張したが、話してみると意外と気さくな方だったこともあり、リラックスして受け答えすることが出来た。体育会の雰囲気が入ってきているようだったので話題を良い流れに持っていくことができた。

体育会であることを良く思ってくれる企業は多いように感じる。しかし企業のカラーがあるので、どの企業でも体育会が歓迎されるというわけでもないように感じた。

3, 考察

同志社の工学部は不況でも働き口はあると聞くが、学内推薦のようなものがあることには驚いた。先輩のお話によると就職活動が大分終盤に入っても、大手の枠が残っていることもあるそうで、工学部の就職率の高さはこういった制度に裏付けられていたものだったということを初めて知った。しかし、その代わり他の学部よりも多く勉強することが求められていることを強調されていた。

K I さんへのインタビュー (no. 069)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、3年前同志社大学商学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、電話でインタビューさせて頂いた。現在は大手システム会社にお勤めである。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 特に理由は無い。拾ってくれたからここに入った。そもそも就職活動を真面目にしていなかったため、まともに受けたのは3社。その内ひとつで最終面接まで進み、専務に気に入られた。体育会が大好きなとても厳しい人で、ボート部の練習場所の近くにお住まいだったため話が合い、最終面接で「最後のインカレがあるのに、就職活動なんてしてられんだろう！ウチに来い！！」と言って頂き、その場で返事をした。

今だから感じることであるが、会社なんて入って見ないとわからない。どんな仕事をしているか、入ってからやっと理解できた。仕事を選べるということはありません。となると判断基準は「ひと」。雰囲気と、自分の場合は専務の人柄と、それからボートしかしていない丸裸の自分に「ウチに来い！！」と言われたら、もう行くしかないと思った。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: ボートしかしていなかったけれど就職したので、別にいらないと思う。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 最終面接では専務に気に入って頂き、その場で決定、という感じだった。その専務とは現在も親しくさせて頂いている。初任給を何に使いたいかと訊かれ、両親に何かしてやりたいと答えると、喜んでくれたのが印象的だった。全くと言っていいほどしなかった就職活動であるが、なんとかなった。

3, 考察

仕事はその企業に入ってみないとわからないし、自分が選べるものではなく、最終的には「ひと」で選ぶしかないとおっしゃられたことが印象的だった。自己分析や企業調査などを全くと言っていいほどしなかった先輩であるだけに、説得力があった。

真面目に就職活動することは必要だと思うが、選ぶ基準としてはとても参考になったインタビューだったと思う。

K Jさんへのインタビュー (no. 070)

1, はじめに

今回インタビューしたのは、2年前同志社大学商学部を卒業された男性である。筆者との関係は部活の先輩であり、電話でインタビューさせて頂いた。現在は大手製紙会社にお勤めである。

2, インタビュー

Q1: この就職先に決めた理由はなんですか？

A1: 理由だが、今考えても何が理由だったか、このインタビューの期待に沿えるようなものは無いように思う。強いて言うなら、雰囲気とそこで働くひと。自分とそこで働くであろう人間が、どのようなひと達なのかで最終的な判断をしたように思う。

Q2: 就職活動をするにあたって、それまでにしておいたほうが良いことはありますか？資格やキャリアなど。

A2: 大学で、学業面で何か残したわけでも、成績が良かったわけでもなく、資格など徒勞と考えたことも無かった。別にいらないのではないかと思う。

Q3: 最終面接はどんな感じでしたか？

A3: 普通の面接であったように記憶している。重役の方々に話を聞いて頂き、こちらとしても好感が持てるひと達だった。面接が終わりしばらくして内定を頂いたので迷わずここに入社した。

3, 考察

その企業に入らないとわからないことばかりだとおっしゃられた。就職活動をしている間の自分は何もわからず、自分の意思で仕事を選択することなど不可能。最終的に判断できる唯一の要素は「ひと」と言われたことが印象的であった。どんな環境でも適応できる自身がある上で、「住めば都」の考えを持つことが出来れば、就職先を仕事で選ぶことなど意味が薄いことであるかのように感じる。こういった考えができるこの先輩は、学生時代に部で相当にしごかれたということに、その原因を求めることが出来るかも知れない。